書　評

1999 家庭用エネルギーハンドブック

編　集：㈱住環境計画研究所
発　行：㈶省エネルギーセンター
定　価：2,400円（本体価格）
評　者：**手塚　哲央**（京都大学助教授）

待望の統計書が出版された．

家庭におけるエネルギー消費に関する計測は，未だ十分には行われていない．例えば，各種エネルギーがどのような用途にどの程度利用されているのかを知ることも容易ではない．そのような状況の下，同研究所は，石油危機直後から，家庭におけるエネルギー消費量を，エネルギー種別，用途別，そして地域別に独自の手法に基づいて推計し，その結果を「家庭用エネルギー統計年報」として世に送り出してきた．一貫した手法により推計されたデータは時系列分析の対象としても利用可能であり，有用な統計データとして知られている．しかし，残念ながら，「家庭用エネルギー統計年報」は主として会員向けに配布されるていものであり，一般の人からは多少縁の薄い存在であったといわざるをえない．

この度刊行された「家庭用エネルギーハンドブック」は，その要約版ではあるが，誰でもが容易に入手できる家庭用エネルギー統計として最初のものである．

本書の内容は，２編より構成されている．

１編は，家庭におけるエネルギー消費の実体に関するものであり，世帯当たりエネルギー種別光熱費消費支出の推移，家庭用エネルギー価格の推移，エネルギー種別消費単位の推移，用途別エネルギー消費原単位の推移などの項目から構成されている．

一方，２編は，そのエネルギー消費量の決定要因と考えられる経済，人口，住宅，各種エネルギー利用機器のストック量等に関する統計が掲載されており，家庭用エネルギー需要の分析・予測などに有用なデータを提供する．住宅や設備機器のストックの推計が容易ではないことを考えると，これも貴重なデータ集であるといえよう．

本書が発行されたことにより，家庭用エネルギー需給に関わる議論のための共通のデータ基盤が提供されたことになる．これは，この分野の研究作業において大変有意義なことといえよう．

最後に，本書に対する要望を付け加えさせていただきたい．

第一点は，CD-ROMなど，計算機で直接利用できる形式でデータを提供してほしいということである．これは，おそらくすぐにでも実現していただけるものと期待している．

もう一点は，多少難しいことかもしれないが，データ推計手法についてもある程度の情報提供をしていただきたいということである．統計データを使用するものにとっては，それらのデータがどのように推計されているかを知ることも重要である．それによって，データにどの程度の誤差が潜伏しているかを窺い知ることができるし，さらに，今後のエネルギー統計整備に関する有用な知見を提供することにもなるからである．

家庭用のエネルギー需要は，エネルギー政策を考える上で，今後ますます重要な位置を占めるものと予想される．本書の刊行により，この分野の研究が一層進展することを期待する．